

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2頁 社会と共に歩む活動の取り組み・湖西ブロック

3頁 司祭人事一覧

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-4345
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601



日常生活に生きるミサ

日常生活において、私たちは神と出会っているはずです。でも、日々の生活に追われて、なかなか神と出会っているという実感をもてないでいます。

そこで、週の初めに、ミサに参加して復活されたイエス・キリストが私たちのために愛と奉獻の生活をされたことを思い起こします。弟子である私たちは、もう一度決意を新たにし、日常生活へと派遣されます。その意味で、日常生活と切り離されたミサはありません。ミサに参加することによって、生き方を振り返り、生き方を変える必要があるのです。

ミサに参加さえしていれば、信仰が守られているという考えでは足りないので。聖体によってイエス・キリストと結ばれるという実感はミサにおいてこそ実現することです。日常生活において、神との出会いを確かなものとする力を頂くためにミサに参加するのです。

**3
2004**

社会と共に歩む活動の取り組み

滋賀地区湖西ブロック

滋賀県湖西ブロック協議会では、

に手を差し伸べられました

一人ひとりがその問題を改めて考
えなければならぬと思います。
キリストは、絶えず貧しい人、苦
しんでいる人や弱い立場の人々と
接し、この人達の人生を喜びに変
えていきました。それは姿の見え
ない神の願いを、この世に、見え
る形で表していかれたのです。そ
してキリストは弟子である私たち
に、自分(キリスト)に学びなさ
い、といわれました。いま社会に
於いて、目に見えない神の願いを
世に表せるのは、キリストの弟子
である私達のほかにはいないと思
います。一いや、そうではないか
も知れません。神は総ての人の内
に、その願いを託しているのでしょ
う。自分勝手で冷たい社会とい
われる人達の中にも、福音的な働
きをしている人達や団体は沢山い
ます。福祉の面からいえば、いま
社会全体が福音的な方向に向かっ
ているのは確かです。

り、紹介してくれました。多くの
生徒が孫に○○君と声をかけてく
れます。運動場では上級生が一緒
に遊んでくれます。夏の暑い日、
先生が孫の手を取って団地の中を
散歩している姿を、何度も見かけ
ました。こうして一年経った今で
は、無表情だった孫の顔も見違え
るよう明るくなり、言葉も少し
話すようになりました。なにより
も私達家族にとっては、絶望が希

（社会と共に）の実例集を作成し
ました。この冊子の中には、數十
年間障害者のために活動を続け、
十箇所の作業所などを設立して今
では社会福祉法人に発展したもの
から、最近はじめた小さな奉仕活
動に至るまで様々ですが、三十六
の個人や団体の実例が収録されて
います。冊子の内容は奉仕を受け
る対象者（施設、地域、困っている
個人）や、活動する時間帯、人
数や活動の内容や、今皆さんに支
援して欲しい要望も具体的に載せ
ています。そしてこの活動の福音
的な意味についても、個人の感想
として記載しております。

この実例集の表紙には次のように
書かれています。
「社会の中では、病気で苦しんで
いる人、身体や知的な障害のある
人、年老いてさびしく一人暮らし
をしている人、その他にも弱い立
場の人達がどんなことで困った
立場の人達がどんなかを知つてもら
うためです。その苦しんでいる人
達が、もしも自分の家族だったら、
或いは自分の子供だったらと共感
します。福祉の面からいえば、いま
学校の特別学級に入学しました。
運動の方で、時間的に可能な方に
は、参加して下さい、と呼びかけ
たいのです。

この実例集の表紙には次のように
書かれています。
「社会の中では、病気で苦しんで
いる人、身体や知的な障害のある
人、年老いてさびしく一人暮らし
をしている人、その他にも弱い立
場の人達がどんなことで困った
立場の人達がどんなかを知つてもら
うためです。その苦しんでいる人
達が、もしも自分の家族だったら、
或いは自分の子供だったらと共感
します。福音的の方向に向かっ
ているのは確かです。

今回のイラク戦争の直前、全世
界の各地で行われた反戦デモには、
一千万人以上の人々が自主的に参
加したり、各地で開催される環境
問題の講演会には毎回、数百人の
市民が参加しています。私たちは、
社会の中で行われている福音的な
活動にも、支援したり、参加する
ことも大切だと思います。

（キリストは、このような人々
ます。

私たちが行っている奉仕活動や、
平和を求める運動は、福音宣教と

生きる人達が沢山います。その方々
は孤独と不安の毎日を過ごしてい
ます。

（唐崎教会 岩崎章太郎）

2004年司祭人事一覧

2004年1月25日付

京都北部地区

宮津ブロック
共同宣教司牧
網野 岩滝 加悦
丹後大宮 峰山 宮津
瀬戸高志
M. カリエ

舞鶴ブロック
共同宣教司牧
綾部 西舞鶴 東舞鶴
福知山 報恩寺
N. レサール
三輪周平

滋賀地区

湖西ブロック
共同宣教司牧
大津 唐崎 安曇川
瀧野正三郎
三宅秀和
湖東ブロック
共同宣教司牧
草津 甲賀 彦根 長浜
J. ジャクソン
R. デ・ヴァルス

京都南部地区

北ブロック共同宣教司牧
衣笠 小山 西陣 西院 宇津 山国

花井拓夫 L. ホルスティング P. バーケルマンス(協力)

西ブロック共同宣教司牧

桂 九条 長岡 丹波
福岡一穂
村上真理雄 W. ボルセス

東ブロック共同宣教司牧

河原町 北白川 高野 山科
浅田年生 J. モンロイ
外崎 豊 小野十益(協力)
A. タバモ(協力) Y. ポアベル(協力)

南ブロック

南ブロックA 共同宣教司牧

伏見 桃山 八幡
東門陽二郎 J. A. ロペス

南ブロックB 共同宣教司牧

宇治 青谷 田辺 精華
北村善朗 奥村 豊 一場 修

教区司教 大塚喜直

司教総代理 村上真理雄

司教館気付 上田 嶽(仁豊野ヴィラ)、松本秀友、森田直樹(海外研修)

奈良地区

北部ブロック共同宣教司牧
富雄 登美ヶ丘 奈良 大和郡山

P. ウィックス 西野猛生
K. ハンロン S. ニュージェント

南部ブロック共同宣教司牧
御所 西大和 大和高田 大和八木

K. タロク J. ウォルシュ
J. ヒル(協力)

三重地区

北勢ブロック共同宣教司牧
桑名 四日市 鈴鹿 亀山

村上透磨 A. バルデス E. モンレアル

中勢ブロック共同宣教司牧
上野 名張 津 久居

R. ネリグ B. ニシムラ J. ハメル(協力)

南勢ブロック共同宣教司牧
伊勢 松阪

柳本 昭 R. ザーン

学校法人担当 小野十益

福音センター担当 外崎 豊 P. オヘール

生涯養成担当チーム 村上透磨 松本秀友 P. ウィックス 外崎 豊

共同宣教司牧推進チーム 西野猛生 福岡一穂

青年センター担当 福岡一穂 柳本 昭 奥村 豊

国際協力委員会 P. オヘール 柳本 昭 B. ロハス(滞日ラテンアメリカ人司牧専任)
J. ハメル L. ホルスティング J. A. ロペス

教区本部事務局 事務局長: 北村善朗



福音センターニュース

つながっていきまく キリスト

2004年度 福音センター 養成コース

自己発見から
神へ

3月10、24日
4月7、21日

絵本はいいなあ
第一火曜日

2月～12月
(5、8月休み)

沈黙の祈りへ

2月18日
3月3、17、31日
4月14日

祈りコース

I) 5月7～9日
II) 11月5～7日

ノートルダム唐崎

信徒奉仕者
基礎講座
予定

高齢者と介護
(講演会)
痴呆と人間の尊厳

3月14日
河原町

結婚講座
(第22回)

1月24、31日
2月7日
河原町

結婚講座
(第23回)

7月10、14、17日
河原町

病人訪問
コース

I) 5月28～30日
II) 5月18～19日
宝塚默想の家

滞日外国人
と共に

7月3～4日
奈良野外礼拝センター

出前コース

共同体の要望に
応じてプログラムを
企画します



現在、受付中

問い合わせ

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

TEL 075-822-7123 FAX 075-822-7020

HP <http://www.kyoto.catholic.jp> E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp



福音宣教とは、「人々の内部からの変化・刷新」で、その第一歩は「あかし」です。今年一年信徒の様々な「あかし」をご紹介し、あかしの本質について考えます。一回目は、「聴く」ことから聖書の分かち合いに発展した体験です。

橋本恵美子(登美ヶ丘教会)

10年ほど前の秋のことでした。夫の思いがけない急死の後、わたしはどうしようもなく落ち込んでいました。けれどそれまで支えてくれていた娘たちにもそれぞれの家庭があることを思い、これ以上迷惑はかけられないと、泣けるだけ泣いた後、これからは神様を頼りに生きていく覚悟をきめました。

それからの毎日は神様と二人三脚の日々でした。日曜日のミサには必ずあずかり、神父様の説教をたいせつに心に留めて一週間の暮らしの中で実践する。「聖書と典礼」は持ち帰り、毎日の朗読箇所に従って聖書を読み、実行する。過去に何があったかではなく、これから何ができるかを考える。これがわたしの目標でした。けれど生まれつき不器用で生きることの下手なわたしは、精一杯生きてきたという以外いっさい今から何ができるのだろうか。そんなわたしが思ついたのは聴くということでした。

「聴く」ことを基にして

その頃、核家族化が進み、高齢の方が何日も人と話をせずに過ごしているとか、学校内の暴力、家庭内の暴力が大きく報道されていました。大正と昭和の間に田舎の大家族で生まれ育ったわたしはご高齢の方の話し相手にはなれる。15年間姑と暮らした経験からお嫁さんの気持ちも聞いてあげられるかもしれない。国民学校に勤めた経験があり、子供たちの話の聞き役になれるかもしれない。娘二人を育てたので若いお母さんの話し相手にもなれるかもしれない…そんなわけで、教会の方に

お願ひして色紙に「聴く」と大きく書いていただき、額に入れて応接間に掲げました。

家庭での「みことばの分かち合い」

すると面白いことが始まりました。ある宗教のおばあさんが、わたしが落ち込んでいるという噂を聞いて助けに来てくださいました。色々お話をうかがっていますといつの間にかご自分の昔話になり、お孫さんやお嫁さんの自慢話となって帰っていました。また若いお母さんやご近所の方々ともキリスト教のビデオを見たりテープを聴いたりするうち、その方々が聖書を買われ、わたしの家で「みことばの分かち合い」のようなことが始まりました。

聖書輪読会の開始

そのことを教会の祈りの集いでお話ししたこときっかけとなり、背中を押されるようにして神父様のお許しを得、聖書輪読会が始まりました。聖書をもっと学びたいと思っておられても、ご家族とくに子供のおられる方は講座や黙想会に出かけにくいのです。一人暮らしのわたしには自由と時間があります。ですからわたしが勉強会や黙想会、聖書講座で学んだことをまとめ、聖書の言葉と照らし合わせてお伝えすることにしました。この会では、いずれは分かち合いができるように一人ひとりが声をだすことを心がけました。

1997年に月1回のベースで始まった聖書輪読会は、予定の5年をあっという間に過ぎ、結局は6年3ヶ月、75回をもって最終回といたしました。

一〇〇四年度司祭の異動

I 司祭の異動

(四月十二日付)

(従来の任命職務に加えて)
青年センター 担当司祭
青少年委員会 高校生会 担当
司祭 (一月一日付)

西村 ブライス師
(旧任命:三重地区南勢プロツ
ク担当司祭)

三重地区中勢ブロック共同宣教

司牧 担当司祭

パトリック・オヘール師

(旧任命:三重地区中勢プロツ
ク担当司祭)

福音センター 担当司祭 (國際
協力委員会担当司祭 兼務)

松本秀友師

(旧任命:京都南部地区地区長、
東ブロック担当司祭)

司教館氣付

ロー・ダム師

(旧任命:滋賀地区湖東ブロツ
ク担当司祭)

メリノール宣教会本部へ転任

II 新しい職務の追加任命



こんじゅくシスター

メリノール女子修道会
本部／松ヶ崎修道院



前列右より

Sr 小野 (一九四八年より来日二〇〇〇年三月
○三秋帰国) Sr アグネス (一九四
九年より) Sr マリア後列右より Sr
ローズ (一九六〇年より) Sr ロレッ
タ (一九六三年より) Sr モーリン
(一九五三年より) Sr キャサリン
(一九七一年より) Sr 大蔵

牧 担当司祭 (四月十二日付)

外崎 豊師
(従来の任命職務に加えて)

子羊会 相談役 (四月十二日付)

マ聖省より Foreign Mission
Sisters of St. Dominic として
正式に認可を受けた比較的新しい
修道会です。私共の活動は、「変
りゆく世界に福音を告げるため、
キリストと共に貧しい人々、弱い
人々のニーズに応えようと、アメ
リカ・アフリカ・アジアの約二十
カ国で、人々と共に福音に生きる
よう努力している」：修道会憲章
より。

戦前一九三七年に来日し、滋賀
県で社会福祉と小教区司牧に従事
し、戦後はいち早く日本に戻り、
一九四六年に松ヶ崎で修道院を開
き、多くの小教区で宣教活動に努
めました。一九六三年には三重県
四日市に学校法人メリノール女子
学院を設立し、中学校高等学校の
女子教育に従事、二〇〇〇年三月
に同法人の設置母体をエスコラビ
アス修道女会に移管しました。現
在では英会話指導をとおして社会
人にキリスト教的価値観を伝える
こと、カトリック病者の会「子羊
会」の諸活動に協力、知的障害者
の作業所・高齢者の特別ケアセン
ターでの奉仕、フィリピン人共同
体との交流、キリスト教瞑想グル
ープの指導等様々な使徒職に奉仕し
ています。

高齢化の波はこの共同体にも押
し寄せて来ていますが、私共は
「祈り」と「宣教修道女としての
証の日常性」により使命を追及し、
日々の修道生活にはげみたいと願つ
ております。

お
知
ら
せ

教育関係施設から

教区委員会から

◆典礼委員会▼教会の祈りと聖体
贊美式・主日のミサ 第一日曜日
17時半 河原町教会

プロック・小教区から

◆九条教会▼4月4日(日)ミサ
中、ダフィー師の追悼

◆京都コリアンカトリックセンター

▼韓国カトリックの聖地を巡る旅
募集人員約20名 費用約九万五千
円 問合せ電話075(841)5964 FAX075(822)2631 Sr.マリア朴、金芳秀

修道会から

◆聖ドミニコ女子修道院▼みこと
ばを聴こう6日(土)「わたしと
いう現象は」(宮沢賢治の宗教意
識について 講師 ボグナ・ヤン
コスカ氏 会費三百円▼申込み電
話075(231)2017 Sr.庄

◆宇治カルメル会▼一般のための
黙想17日(水)10時~16時「聖ヨ
セフ」福田正範師

金曜日 Sr.安藤敬子 場所 聖母
教育文化センター▼聖書講座火曜
日 場所 聖母女学院香里セミナー

◆京都ノートルダム女子大学▼卒業式11日
◆聖母女学院短期大学▼卒業式16日

◆海星中学高等学校▼高校卒業式1日▼中学卒業式17日

◆京都聖カタリナ女子高等学校▼卒業式19日

◆聖母学院中学・高等学校▼中学卒業式2日

◆セントヨゼフ女子学園高等学校▼卒業式2日

◆日星高等学校▼専攻科卒業式5日

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼卒業式22日

◆メリノール女子学院中学校・高
等学校▼高校卒業式1日▼中学卒業式22日

◆洛星中学校・高等学校▼中学卒業式23日

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日7日(日)14時河原町教会地下
下ホール 14日(日)14時 27日(土)19時 河原町会館六階ホー
ル▼チャリティコンサート20日(祝)14時半開演 河原町大聖堂
問合せ電話075(951)4283 則武

◆聖母学院小学校▼卒業式16日
◆ノートルダム学院小学校▼卒業式15日

◆聖母教育文化センター▼日曜巡礼の旅 講演会「京都と聖書」14日(日)13時半 講師 三俣俊二

◆京都キリスト研究会▼定例会28日(日)14時 河原町会館六階
名前 場所 聖母教育文化センター▼聖書講座月曜日、火曜日、木曜日 河原町会館六階ホール

◆在世フランスコ会▼京都兄弟

会集会20日(土)13時半 フラン
シスコの家

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ
会▼河原町協議会14日(日)▼京
都中央理事会28日(日)

◆二金会▼13日(金)西陣教会
糠みその会▼例会25日(木)19
時45分 九条教会

◆レジオ・マリエ▼アチエス21日(日)13時 河原町会館六階ホー
ル

◆心のともしび2月番組案内▼テ
レビ主な放送内容(21日放送予定)
差別問題に関わってきたシスター

橋本(聖ヴィンセンシオ・ア・パ
ウロの愛徳姉妹会・京都在住)に、
私たちの心の中にある気づきにく
い差別について語っていただく▼

ラジオテーマ「甘え」▼問合せ0
75(211)9341

◆「一万匹の蟻運動」基金報告
累計三九、八九九、〇九八円
(二月十九日現在)

◆お詫び 315号(2月号)8ペー
ジ「こんにちはシスター」の記事
中、Sr.野元を本文中でSr.野本と記
載しました。お詫びして訂正いた
します。

編集部から

大塚司教の

3月のスケジュール

1日(月)	(月)メリノール女子学院高
2日(火)	校卒業式10時
3日(水)	中央協議会
4日(木)	中央協常任司教委員会
5日(金)	長岡幼稚園感謝の祈り
6日(土)	(河原町)10時
7日(日)	司教の奈良地区集会
8日(月)	(奈良)14時
9日(火)	中勢ブロック司教訪問
10日(水)	(名張教会)
11日(木)	京都学園・京都南学園
12日(金)	学法理事会14時
13日(土)	青少年委員会15時
14日(日)	滋賀学法理事会14時
15日(月)	京都ノートルダム女子
16日(火)	大学卒業式10時
17日(水)	聖母学院小学校卒業式
18日(木)	ノートルダム学院小学
19日(金)	訪問(大和八木教会)
20日(土)	者講習会14時
21日(日)	奈良南部ブロック司教
22日(月)	訪問(長浜教会)
23日(火)	中央協議会
24日(水)	教区保育者研修会ミサ
25日(木)	15時
26日(金)	侍者合宿(遠足参加)
27日(土)	聖香油ミサ11時
28日(日)	滋賀湖東ブロック司教
29日(月)	訪問(長浜教会)
30日(火)	1月30日帰天
31日(水)	中央協議会

◆帰天

ノエル・オウグスト・レサール師

(レデンプトール修道会)

1月30日帰天



されました。七十五歳でした。

京都北部地区をはじめ、京都教

会のためにいろいろご奉仕してく

ださいました。永遠の安息のため

にお祈り下さい。

青年センターあんてな

中学生会の冬合宿を田辺教会で行いました。参加人数は二十名。ブラジルやペルー出身の中学生の参加もあり、国際色豊かな顔触れとなりました。今回の合宿のテーマは「喜び」です。一瞬一瞬の喜びを大切にし、又それを仲間と共有する事が目的です。今回の合宿では、冬合宿を最後に卒業する三年生の為に、卒業証書を中学生(主に一、二年生)に手掛けてもらいました。今回証書に使ったのは白紙の絵本です。最後に思い出そうと試みました。一から自分たちで創作する事に戸惑いと難しさを感じつつも、それぞれの感性を發揮し、話しあいながら一生懸命取り組んでくれたと思います。リーダーも、メッセージといつまでも大切にして欲しい福音を一箇所抜きだし、三年生一人一人にあてて書きました。

十五歳でした。

クリスマスパーティーでは、色々なゲームをしながらプレゼント交換をし、手作りケーキを食べました。そして、卒業式。皆で作った証書を手に、そして

17日(水)社会福祉法人カリタス会理事會14時

司教顧問会・責任役員会10時

司祭評・常任委員会14時

京都南部東ブロック司教訪問(高野教会)

中央協諸宗教対話委員会9時

中央協議会

教区保育者研修会ミサ

中央協議会

21日(日)京都南部東ブロック司教訪問(高野教会)

中央協議会

26日(金)侍者合宿(遠足参加)

27日(土)聖香油ミサ11時

28日(日)滋賀湖東ブロック司教

訪問(長浜教会)

31日(水)中央協議会

中学生・高校生冬合宿

中学生会の冬合宿を田辺教会で行いました。参加人数は二十名。ブラジルやペルー出身の中学生の参加もあり、国際色豊かな顔触れとなりました。

中学生会では一月四日から六日まで、登美ヶ丘教会で合宿を行いました。

今回の合宿のテーマは「すつきり」です。聖書の話を聞いて疑問に思ったことや、本当にそうなんだろうかと思ったことをどうを皆で神父様に質問し、答えてもらって、すつきりしようとしたのです。こういう疑問は持っていてもなかなか言いにくいものだと思います。明確な答えが出ないものもありましたが、新たな発見もあり皆で楽しく過ごすことができました。神父様とじっくりお話しする時間は普段なかなかないので、有意義な時間を持つことができました。今

年の合宿場所は、春は三重(三月下旬)、夏は京都北部、冬は京都南部または奈良の予定です。

(高校二年 坂西遼)